

看護学
研究科



糖尿病・代謝内科 宮田クリニックおよび大学 勤務

荻野 友子 さん

2019 年度 修士課程 修了 （慢性看護学分野）

研究結果を臨床現場に活かす

私の研究テーマは、「2 型糖尿病患者の炭水化物摂取に関する認識」についてです。世間では炭水化物に関する話題が注目されていますが、意外なことに、2 型糖尿病患者様が抱えている炭水化物への認識は曖昧なものでした。今後は研究で得られた新たな知見を看護実践に取り入れ、豊かな療養生活が送れるような看護を実践していきたいと考えています。また、教育現場においては自身の看護経験や大学院での貴重な経験を学生さんに伝えていきたいと考えています。

現在の仕事

糖尿病療養指導士の資格を生かして、糖尿病や生活習慣病患者様への生活指導を中心に、糖尿病患者様の自己管理能力を引き出し、それを実行できるようサポートしています。大学では、学生さんの自己効力感を低下させないような関わりや、学生さんが自分で考えられるような関わりを心がけています。

松田 真紀子 さん

2018 年度 修士課程 修了 (慢性看護学分野)

多くの患者さんの声を聞き臨床現場に活かす

大学院を目指す前に、まず科目等履修生として単位を取ることで入学後の取得単位が軽減されました。入学後も平日には東京で仕事、土日は飛行機で通学という生活でしたが、先生方に日程を調整していただけるので無理なく両立できました。治療が飛躍的に進歩した現在、患者さんは医療との間にギャップを感じながら治療を継続しています。関節リウマチ患者の治療に対する認識の過程を理解し、看護師が関わる必要性を感じ研究を行ってきました。新たに得られた知見を看護に活かすことが、私の使命であると思っています。

現在の仕事

リウマチ・膠原病患者さん専門的に治療するクリニックで勤務をしながら、日本リウマチ財団の専門職委員や学会理事なども兼務しています。

名古屋女子大学 勤務

春藤 友香 さん

2017 年度 修士課程 修了 (看護教育学分野)

視野が広がり仲間もできた貴重な経験

大学院では、臨床での教育担当者経験から、教育担当者自身が一皮むけたと感じた経験がいかにより自身の成長を支えているかについて研究しました。その結果、経験を振り返ることの重要性に気付きました。また、医療科学研究科との共通科目では PT や OT の方とディスカッションをし、それぞれの職種の考え方を知ることができ、とても視野が広がりました。土日に授業が開講されていたことや、先生方も一人一人のペースに合わせて指導してくださり、働きながらも研究を進められたことが良かったです。さらに、同期生や先輩方との日々がとても刺激的で、かけがえのない仲間ができたことも、私にとってとてもありがたいことだと感じています。

現在の仕事

大学院での経験をもとに、現在は教員として働いています。少しでも、学生さんの成長を支える事ができるよう、日々奮闘しています。

林 詳子 さん

2016 年度 修士課程 修了 (急性看護 CNS コース)

感覚で判断しないロジカルな思考を持つ専門看護師へ

看護師として働く中で、私たちの立場からも臨床研究を行う必要性を感じ、大学院進学を志望し、専門看護師の資格取得を目指し CNS コースを受講しました。教授や先輩からは熱心にご指導いただき、専門看護師に不可欠なロジカルな思考が身につきました。また、キャリアも分野も異なる仲間との日々のディスカッションで、看護の視野も広がりました。これらの学びから、復職後は目の前の問題に対し経験と感覚だけで判断せずに、立ち止まって考え実践しています。医師を含め多職種と議論し連携した医療を提供しています。研究テーマだったせん妄ケアは、スタッフとともに院内の専門チームと連携しせん妄の重症化を予防する支援を続けています。

現在の仕事

救急外来で、多職種とともに、予期せぬ体調変化や事故により、生命の危機に置かれる方々の状態が早期に安定化し、患者とその家族が望む生活が送れるよう支援しています。